

授業科目 在宅看護学概論

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	看護
宇田 優子 他		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	◎	○	○	
【概要・一般目標：G10】					
急速な高齢化、家族構造の変化、人々の健康意識の変化、医療費削減・在院日数の短縮化などによって、在宅ケアのニーズは増大している。それに伴い、看護職に求められる能力も複雑で高度化してきている。こうした背景をふまえ、在宅看護学では保健・医療・福祉の有機的な連携を基盤として、在宅療養をしている人とその家族を、「地域で生活すること」「その人らしく生きること」に視点を置いて理解し、在宅看護の機能と役割について学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護が必要とされる背景を説明できる。 2. 在宅看護の対象となる個人とその家族の特性、コミュニティとのつながりについて説明できる 3. 在宅看護の対象者のニーズについて、疾患や障害の特性をふまえて説明できる 4. 在宅看護の活動の場、保健医療福祉対策、ケアシステムについて説明できる 5. 在宅看護における倫理について説明できる 6. 小児、成人、高齢者の在宅看護の特徴を理解する 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	社会の諸情勢と在宅看護の歩み、役割、法律			1	講義
2	在宅看護の対象の特性とコミュニティとのつながり、支援に必要な理論			2、3	講義
3	在宅看護の対象の家族の理解と家族支援に必要な理論			2、3	講義
4	在宅看護の場と社会資源、ケアシステムとリスクマネジメント、看護倫理			2～5	講義
5	訪問看護ステーションの訪問活動の実際			1～5	講義
6	小児への在宅看護の特徴			6	講義
7	成人への在宅看護の特徴			6	講義
8	高齢者への在宅看護の特徴 * 内容は変更する場合がある			6	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版株式会社	2,400円＋税
参考書					
その他の資料					
【評価方法】			【履修上の留意点】		
授業への貢献度（出席及び提出物を含む） 10% レポートあるいは筆記試験 90%					